

オーストラリアの政策金利引き下げについて

＜政策金利を0.25%引き下げ3.25%へ＞

10月2日、オーストラリア準備銀行(RBA)は政策金利を0.25%引き下げ、3.25%とすることを決定しました。

発表された声明文では、世界経済の見通しがここ数ヶ月で軟化していることや、中国経済の成長が鈍化し、短期的な見通しに対する不透明感も数ヶ月前より増していることなどを背景に、インフレは目標範囲に抑制されるものの、2013年の豪経済の成長見通しは若干低下すると判断されることから、より緩和的な姿勢が適切であるとの見方が示されています。

また、資源ブームのピークが2013年に訪れ、資源開発投資の見直しなどからそのピークが予想よりも低い水準になると見られることも、国内経済の見通しを慎重なものにしました。

＜豪ドルは下落＞

為替市場では、9月に入り米追加緩和期待を背景としたリスク選好の動きが広がり、豪ドルも上昇しましたが、いわゆるQE3(量的緩和第3弾)が発表されると材料出尽くし感からやや下落していました。

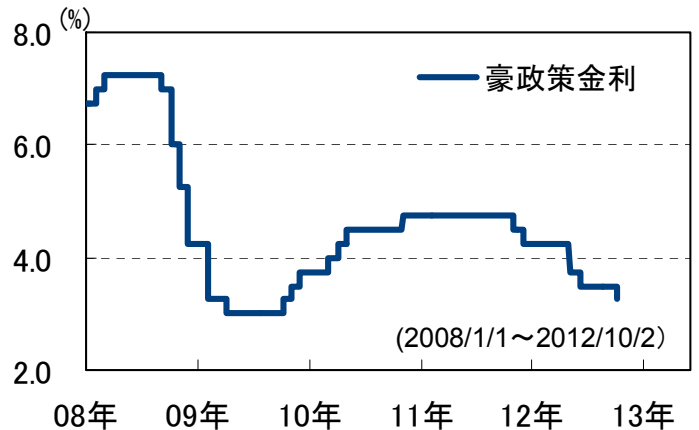
発表後の豪ドルは下落しています。10月2日東京市場14時現在、1豪ドル=1.031米ドル、1豪ドル=80.5円程度となっています。

＜金融政策と為替の見通し＞

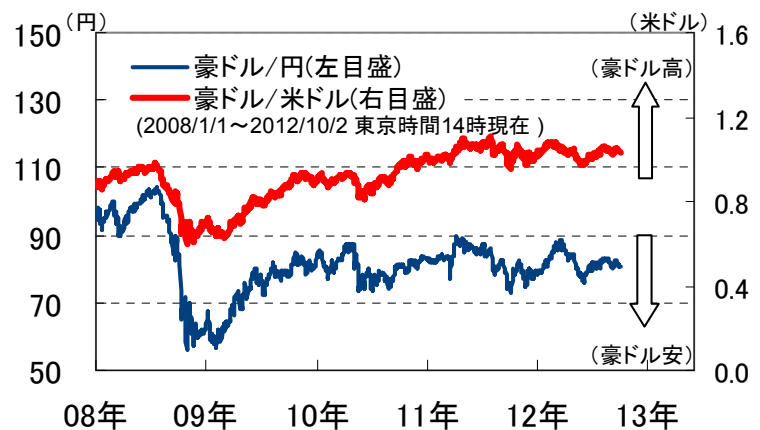
国内のインフレ見通しが落ち着いている一方で、中国をはじめ世界的に景気の下振れリスクが高まっていることから、RBAは金融政策について今後も緩和的な姿勢を継続すると思われます。

豪ドルについては、中国の景気減速懸念から上値が重く、欧州債務問題などの海外要因に振られやすい展開が続いていますが、先進国の中では依然金利が高いことや最上位格付けを維持する同国の安定性などが評価され、底堅く推移すると思われます。

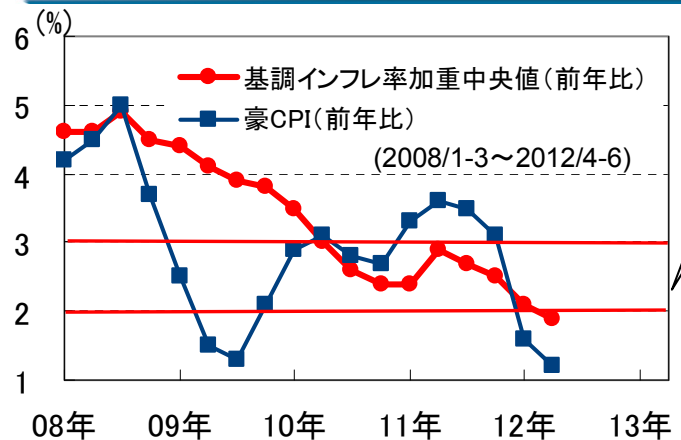
＜豪政策金利の推移＞



＜豪ドル為替の推移＞



＜インフレ指標の推移＞



中央銀行の政策目標範囲

出所: Bloomberg

■当資料は情報提供を目的として大和住銀投信投資顧問が作成したものであり、特定の投資信託・生命保険・株式・債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料に記載されている今後の見通し・コメントは、作成日現在のものであり、事前の予告なしに将来変更される場合があります。■当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。■当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。



商号等
加入協会

大和住銀投信投資顧問

Daiwa SB Investments

大和住銀投信投資顧問株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第353号
社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会